

いくのdeリノベ

「天窗」のある家

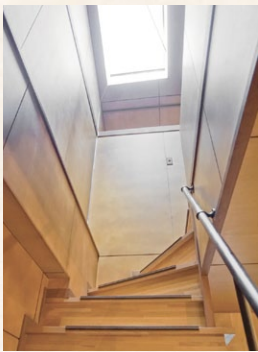
田島地区の今里筋から東に入る通りに康本さんご夫妻のお宅があります。辺りは、大通りの喧騒から一変し静かな住宅街に。木のドア、それを囲む青色のタイルが特徴的な3階建ての1軒家。

築30年のこの家をお二人の住まいに決めたのは、「天窗」があったから。光は3階から2階の踊り場



を抜け1階の玄関ホールまで深く降り注ぎます。昼間はできるだけ自然の光だけで生活をしたいという妻の安紀さんの願いが叶った家でした。

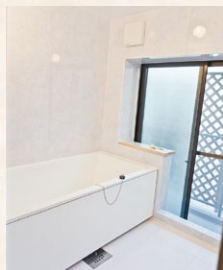
大幅な間取り変更を伴うリノベーションでしたが、なんと引っ越してから始められたそう。居住階を順に移す工夫で、半年後には木の温かさとモダンな家具が共存する素敵なお住まいに生まれ変わりました。夫の禎秀さんは塗装のプロ。建築に詳しいご友人とともに、屋根、外壁、内装全てにおいて自ら手掛けられたとのこと。



2階から見上げた天窗

1階の居住部分だったところは、床をはがしコンクリートを敷き、広いガレージに。壁は深緑色に塗ったタイルと、木の板が共存し、陶製ソケットの電球がアクセントに。

2階は、お二人が主に過ごす場所。洋室を2m×1.6mの大きな浴室に。特大サイズのバスタブと、そのまま残した掃き出し窓が特徴的です。窓を開け放ち、外を感じながら入るお風呂は解放感たっぷり。安紀さんの一番のお気に入り場所です。さらに、浴室と和室だった部分を、リビングダイニングに。その一角には、たたみ一畳ほどの小上がりがあり、そこは、リビングの白壁にプロジェクターから映し出される映像を楽しむには絶好の場所。禎秀さん



の定位置でもありません。床には、杉の無垢材が敷き詰められ、やわらかな質感とあたたかな印象がリビングを一層心地よい空間にしてくれています。



3階は、2つの和室をそれぞれ洋室に変え、寝室とウォーキングクローゼットに。部屋と部屋間のスペースには、本棚と大きな椅子、そして間近に迫る天窗が。ここでは、音楽を聞いたり、本を読んだり、夜には静かに月を楽しんだり。



仕事でお忙しいお二人ですが、優しくほほえみ合い、お話される様子からは、この家がお二人にとって、穏やかな時間が流れ、くつろげる場所であることが感じられます。

ブログでは
写真を追加して紹介しています。



素敵な「お隣さん」を紹介してください!

お隣さんの条件 生野区在住で古い家屋をリノベーションし、自分らしく暮らしている方(他薦のみ)

応募方法 「問合せ」へ下記事項を連絡ください。(電話・FAX・郵送で受付)

- ①あなたのお名前・ご連絡先
- ②紹介したい「お隣さん」のお名前・場所(可能であれば連絡先)

問合せ 区企画総務課 ☎6715-9683 FAX6717-1160
〒544-8501 生野区勝山南3-1-19

★空き家の相談はこちら
区地域まちづくり課 4F ☎6715-9734



IKUNO×グローバル

THET WAI OO さん
(テット・ワイ・オー)

ミャンマー出身。学生。高校卒業後、ヤンゴンで衣料品店を営む父の仕事を手伝いながら、日本語を勉強し、昨年4月に生野へ。電気工事士になる夢に向かい、現在、日本語学校で勉強中。

(ミンガラパー) မင်္ဂလာပီ
こんにちは!

故郷はどんなまち?

400人くらいが暮らしている村で、一面田んぼが広がっています。収穫の時期には稲穂でいっぱいになるんですよ。親戚もたくさん住んでいて、みんな顔見知り。村には菩提樹があるお寺があって、そこで毎月いろいろなお祭りをします。その日は、いつもお寺に村中の人が集まります。春には、その菩提樹に水をあげるお祭りがあるんです。高校卒業するまでそこに暮らしていました。

ミャンマーでは、みんなバイクに乗っていて、日本のバイクが有名なんです。僕も憧れていました。それでかな、高校の時くらいから日本に行きたいなって思うようになりました。

生野に来てどう?

驚いたのは年配の人が元気なところ。それにみんな気さくで。学校で地域の行事に参加したとき、そこで出会ったおじいさんが、僕に日本語上達のコツを教えてくださいました。いっぱい会話を聞くことだって。知り合いもまだ少ないので、ドラマとかテレビ番組をいっぱい見て勉強しています。今ではだいたい話している内容を聞き取れるようになりました。これから電気工事の技術を学んで、いつか僕の故郷の村でみんなの役に立ちたいな。

IKUNO×グローバルは生野区ブログでも発信しています。

生野区 チームいくみん通信



日本精機 株式会社

旧車を愛用する人たちの味方
DOKUROが息を吹き返らせる



代表取締役
高橋 祐子さん



エンジンバルブ「DOKURO」



大阪大学とコラボも。学生さんのアイデアで作ったシャンパングラスとチェスセット。

デザイン性を求め、あえて古い日本車を愛用する人は多い。乗り続けるためには、部品の交換は必須だ。それなのに、純正の部品は高価である上に、数年で製造が終了となってしまう。しかし諦めることはない。日本精機は、超小口のオーダーにも対応する数少ないエンジンバルブ製造会社。たった1台のためだけの個人依頼も受け付けている。

ブランド名のDOKURO(ドクロ)には、自由に大海原を駆け巡る海賊のように、世界中をまたにかけられる商品になって欲しいとの思いが込められている。取引する国は60を超える。移動手段としての実用性が求められる国々では、部品を交換すれば、何十年でも乗り続けられる日本車が重宝されているからだ。

DOKUROによって息を吹き返した車が今日も世界で走り続けている。

日本精機株式会社 中川5-13-5 ☎6753-0881

生野ものづくり百景について、詳しくはHPをご覧ください。

ピックアップ
生野
ものづくり百景

